

# 事例の指導経過（自らの指導事例）【記入例】

## 1. 区分

事例の タイトル	自己流で日常生活の管理(運動・服薬)を行う利用者への支援
-------------	------------------------------

※基礎資格とは、介護支援専門員実務研修受講試験受験時の受験資格区分です。「看護師」「介護福祉士」「社会福祉主事」等

主任介護支援専門員 (受講者本人)	基礎資格	介護福祉士
	主な経験等	居宅介護支援事業所・地域包括支援センター
事例の担当者 (相談してきた人)	基礎資格	社会福祉士
	主な経験等	病院
相談のきっかけ	退院後の服薬・リハビリに関して、同事業所の介護支援専門員が助言をしても、ご本人に受けいれてもらえず、困っていると相談を受けて対応することとなった。	
指導・支援した期間	令和 6年 9月 ~ 令和 7年 1月(約 4ヶ月間) ※「期間」とは期間中に複数回の指導・支援も含む	

どういう経緯で、誰から相談を受けて対応することになったのかを記載してください。

## 2. 事例担当者(相談してきた人)からの主訴・悩み(相談したい内容等)

既往に高血圧・糖尿病があり、転倒して胸椎圧迫骨折をした。腰痛・膝通があるが、運動に関しては積極的に出かけるが、足のふらつきがあり、注意力に欠ける動作(急な動作・不安定な動作等)を行う。内服管理も自己判断で薬を止めたり、痛みが強くなると多量に服薬することがある。ご本人は「平気、平気」と聞き流し、家族やケアマネからの助言を聞かない。楽観的な性格・過信もあり、新たな怪我や体調悪化を懸念。助言を聞き流すため、対応支援について悩んでいる。

## 3. 主任ケアマネとしてケアマネに気付いて欲しいところ等

利用者に助言を聞き入れてもらえないと、もう手立てがないと直ぐに諦めてしまう。  
なぜ、その利用者がそのような行動をとるのかを理解し、正論ではなく、聞く姿勢を持って利用者と面談し、ご本人の認識や意向を聞くことが大切。また、利用者との関係性を築くことも重要。

## 4. 主任ケアマネとしてケアマネへの指導・支援に際し、ポイントとして考えたこと

利用者の行動の理由や背景、考えや意向を理解する為、利用者との十分な面談が出来ているか、関係性を築けているか、利用者主体の支援になっているか自身を振り返ること。地域ケア会議で多職種からの助言をいただいて、自分では気が付けない部分を知ってもらえればと考えた。

## 5. 指導経過を通じてケアマネが得た気づき等(ケアマネの変化等)

自信をなくしている担当ケアマネに対し、多職種からの意見を聞くことで、見えてこなかった対応策を知ることができた。自らの支援方法の見直しや、相談が出来る支援があることで、諦めずに利用者へ関わることができるようになった。

## 6. 指導経過を通じて主任ケアマネが得た気づき等(主任ケアマネの変化等)

悩んでいる時に、話を聞き、相談が出来る環境があることで、振り返りが客観的にでき、前向きに考えていく事が出来るため、相談しやすい体制作りと、自分の知識と経験の研鑽が必要と感じた。

## 7. 指導・支援に際し他の主任介護支援専門員に相談したい点等(演習での検討のポイント)

様々な経験値のケアマネに対し、困難事例を前向きに支援していくための指導方法。

※ 下記の内容ですと、詳細が不明のため、助言をどう行ったか、事業所内で何を話しあったか等、指導経過内容を細かく記入してください。用紙が足りない場合は、追加して記入してください。

## 8. 主な指導経過記録(適宜追加) ※下記「項目」……相談、助言・同行訪問・会議への同席等

年月日	項目	内容
R6.9.8	相談・助言	担当ケアマネから相談あり。考え方の助言を行った(→どう助言をしたか記入)地域ケア個別会議に事例提供し、多職種から情報提供をいただくこととなった。
R6.10.19	会議へ同席	地域ケア個別会議に同席(→内容を簡潔にまとめて記入)
R6.11.28	同行訪問	同行訪問し、現状把握。担当ケアマネに助言。(何を助言したか→経過も記入)
R6.12.20	経過確認・助言	助言に対して少しずつ聞き入れてもらえるようになったとのこと。(→何に対して助言を行ったか記入)
R7.1.12	経過確認	服薬や運動に関して、医師から説明をしてもらったとのこと指導を終了。(どういう経緯で医師から説明になったかを記入)